

「シラバス」の作成要領

キーワード

授業科目の具体的内容を示したキーワードを2～3個入力してください。

授業形態

「講義、演習、実験、実習、実技」の区分を入力してください。

＜参考：大阪教育大学における単位の計算基準を定める要項（抜粋）＞

- (1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習は、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技は、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。
ただし、個人指導による実技については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技（個人指導による実技を除く。）のうち二以上の方法の併用により行う場合、講義と演習の併用のみ15時間の授業をもって1単位とし、それ以外の併用は30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

授業の到達目標

当該授業を履修することによって、どのような知識・能力などが修得できるかを250字以内にまとめて入力してください。

- (1) 学習後の**総合的な成果**を学生を主語に表記する。
例：・○○○の基本的な事項について、理解するとともに○○の各領域の概要と課題を理解する。
・○○について関心を持ち、主体的に考えることができる。
・○○の歴史を認識し、今後の○○○の方向性を考察することができる。 等々
- (2) 学習後の**具体的な成果**を学生を主語に表記する。
 - 1) 知識、理解の観点
例：・○○とは何かと説明できる。
・○○の各領域の概要と課題を説明できる。 等々
 - 2) 思考、判断の観点
例：・授業で取り上げた各領域について、自分の意見を主体的に述べることができる。等々
 - 3) 関心、意欲の観点
例：・○○○に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 等々
 - 4) 技能、表現の観点
例：・考察した結果を文章や口頭で適切に表現できる。 等々
 - 5) その他の観点

3つの知（学習成果の指針）

授業の到達目標に示した修得できる知識・能力などを、学生に次の「3つの知」で示すために、少なくとも1つ以上の知を選択して、アスタリスク（*）を入力してください

なお、1つの学習内容に複数の知が含まれる場合もあります。

- (1) **学問知** 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、批判的思考力、問題発見能力 等
- (2) **技法知** メディアリテラシー、数量的推論、自国語・外国語、学術的な文章作成能力、言語的・非言語的両面での表現力・コミュニケーション能力 等
- (3) **実践知** 問題解決力、協働力、自立した市民としての社会的責任 等

授業の概要

どのような授業を行うのか授業の趣旨を教員が主語で100字以内にまとめて入力してください。

授業の計画（準備学習を含む）

授業について、各回（半期の場合15回分、通年の場合30回分）の「授業の項目・内容、授業外学習の指示等」が具体的に明確に分かるよう表記し、入力してください。

平成20年12月24日の中教審答申（「学士課程教育の構築に向けて」）において、単位制度の実質化のため1単位あたりの授業時間数を十分に確保することが求められていることから、試験（小テストを除く。）を実施される場合は、第15回の授業計画の下にお示しください。

また、平成24年8月28日の中教審答申（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」）においては、学士課程教育の質的転換のために、学修時間の増加・確保を始点として、学生の主体的な学びを確立することが必要とされており、その方策の一つとして、シラバスの充実があげられていることから、毎回の授業の計画に「準備学習と復習の内容や目安となる学習時間等についての具体的な指示」を盛り込んでください。

例：第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）

シラバスを事前に読んでおくこと。

第2回 ○○○について解説する。（グループディスカッションを行う。）

前回の復習、教科書P00～P00、資料○○を読んでおくこと。

第3回 ○○○について考察する。（フィールド学習を行う。課題レポートを仕上げる。レポートの問題点を修正する。）

前回の復習、実習の到達目標を設定してくること。

第4回 バasketボール

前回のイメージ・トレーニング（毎日15分）、ルールとマナーを覚えてくること。

.....

第15回 まとめ

試験

成績評価の方法

次のことを入力してください。

- (1) 「授業の到達目標」の到達度をどのような方法で評価するかを示し、各成績評価方法について評価の割合（全体を100%）を示す。
- (2) 「授業への取り組む姿勢」や「授業での発表」については、授業内で求める行為・内容を明確に示し、レポートについてはどのぐらいの分量のものを要求するかなど、できる限り詳しく示す。なお、出席による加算にあつては、安易に出席のみすればよいと誤解を与えるような表記（例：「出席（10%）」など）は行わないでください。

例：1) 授業の中で小テストを○回行う。（20%）

2) ○○についてのレポートを○○字程度で作成し、提出する。（30%）

3) 試験を実施する。（40%）

4) 授業への参加度（10%）

テキスト

著者名（フルネーム）、「書名」（「」かぎかっこで囲んでください。）、出版社名、出版年、ISBNを入力してください。なお、特に指定がない場合には「なし」、レジュメを用意する場合には「レジュメ配付」というように、具体的な内容がわかるような表記で入力してください。

参考文献

著者名（フルネーム）、「書名」（「」かぎかっこで囲んでください。）、出版社名、出版年、ISBNを入力願います。なお、特にない場合には「なし」と入力してください。